

巻 頭 言

コミ福の新たな展開にむけて

コミュニティ福祉学会運営委員長

コミュニティ福祉学部学部長

三本松 政之

2018年度はコミュニティ福祉学部の20周年の年度でした。「まなびあい」大会では、2年にわたり本誌の前号第11号で掲載されたシンポジウム「コミュニティ福祉に問われていること—過去を知り、未来を拓く—」、そして本号に掲載されているシンポジウム「学部創設20周年！未来への対話—卒業生と語るコミ福力—」を開催し、コミ福の20年を振り返ってきました。

コミュニティ福祉学部は、ミッション系の大学の理念を反映する学部として福祉系学部の設置が大学の方針として決定され、東京六大学で初めての社会福祉系の学部として設立されました。そのためコミュニティ福祉学部の社会福祉領域10名全員は他大学などから移籍し新たに採用され、臨床心理領域は4名のうち1名が学内、他の3名は学外から、さらに学内からはキリスト教学、スポーツ、言語など多様な専門領域の教員が集まり設立され、その設立時点から複合的な領域からなる多様性を内包する学部であることをその特色としていました。コミュニティ福祉を学科名、専攻名などに行っている大学は他にもありますが、いまだ学部は立教だけです。それだけ特色のある学部と言ってもいいでしょう。

設立時に1学科でスタートしたコミ福は、とくに初年度はまだ学生は1年生だけだったので、学生も教員も新しい学部をいっしょに作り上げていくという気持ちを共有していて、学生と教員との近い関係が形成され、それがその後、学部が歴史を重ねるなかでも大切にされてきました。2006年に福祉学科とコミュニティ政策学科の2学科体制に、2008年にスポーツウエルネス学科が加わり3学科体制の下で、「いのちの尊厳のために」を学部の理念として共有し、コミュニティを基盤とした新しい福祉の形を追求してきました。

ゼロからスタートし20周年を迎え、今コミ福は次なる段階へと進みつつあります。コミ福はすでに多くの卒業生を輩出してきました。毎年の「まなびあい」の大会での卒業生との再会やこの2年間のシンポジウムを通じて、卒業生のみなさんがさまざまなフィールドで活躍していることを知ることができ、それらの話をうかがうこ

とができることはほんとうに喜びとなっています。そして卒業生のみなさんの話をうかがいながら感じることは、語る方々がコミ福を卒業したことを誇りに思い活躍してくれていることです。

2年目のシンポジウム「未来への対話—卒業生と語るコミ福力—」においてそれぞれのシンポジストは「コミ福力」について、「つながり力」「実践力」「傾聴力+つなぐ力」「人を大切に思う想像力と創造力」などをあげています。これらの言葉は、さまざまなフィールドでの日々の実践のなかで、ふと自身のことを振り返ったりしたときに、おそらく実感を通して思い浮かんだ言葉なのではないかと思います。

スタート時から積み重ねてきたなかで形づくられてきたコミ福力を基に、今後も時代の要請に応えられるようにコミ福の形は変わっていくとは思いますが、コミ福の「いのちの尊厳のために」という学部理念は継承され、深められていくものと考えます。

まなびあいには卒業生全員に開かれています。コミ福らしさを伝えていくために、卒業生の皆さんには毎年開催される学内学会「まなびあい」の大会に参加していただき、在学生との交流を図り、コミ福らしさを継承するとともに、新たなコミ福の展開にご協力いただきたいと思います。